

**柘植地域**

# まちづくりだより

## 第290号

**発行日** 柘植地域まちづくり協議会事務局  
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地  
(柘植地区市民センター内)  
〒五一九一四〇二  
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三  
2023 (令和五)年三月一日(水)

**発行** 柘植地域まちづくり協議会事務局  
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地  
(柘植地区市民センター内)  
〒五一九一四〇二  
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三  
2023 (令和五)年三月一日(水)



**柘植中学校、文部科学大臣賞受賞**  
 「令和5年2月3日・表彰」  
 柘植中学校が『コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進』に係る文部科学大臣賞を受賞しました。

今年度は全国で12校が表彰を受け、三重県では3校が審査を通過し受賞。その1校が柘植中学校でした。

受賞事由として、「学校運営協議会」と「地域の活動」が効果的に連携している事が挙げられ、表彰対象と成りました。

当連携に依り、学校運営の改善・強化のみならず、学校を核とした地域づくりにも多大の貢献をされたとし、其の功績を称え表彰するものとしています。

今年度の受賞を受け、学校側から2月8日(水)の「学校運営協議会」の場で今回の受賞を報告。『日頃から様々な面でお世話になっている地域の皆様に喜んで戴けた事が何より嬉しく、柘植地域のあたたかさとながりの強さを改めて感じています。ありがとうございます。』と謝意を表し今後ともお力添え戴けるようお願いされた次第です。

尚、「表彰式」は2月3日(金)午後一時から、文部科学省・東館3階・第一講堂(東京都千代田区霞が関3丁目)に於いて行われました。

今年度は全国で12校が表彰を受け、三重県では3校が審査を通過し受賞。その1校が柘植中学校でした。

受賞事由として、「学校運営協議会」と「地域の活動」が効果的に連携している事が挙げられ、表彰対象と成りました。

当連携に依り、学校運営の改善・強化のみならず、学校を核とした地域づくりにも多大の貢献をされたとし、其の功績を称え表彰するものとしています。



**いがまち行政サービス巡回車に「フリー乗降制度」が導入されました**

令和5年2月1日から、ルート上であれば停留所以外の場所でも乗り降り出来るようになりました。「乗車時」安全な場所、バス進行方向の左側で手を上げて合図する「降車時」停車位置よりも10m手前までに椅子に座ったまま運転手に口頭で伝える。

柘植地域俳句コーナー  
 春は曙  
 ジーゼル列車  
 響く里  
 北嶋 ちる子



【句会紹介】  
『いがぐり川柳句会』

講師 梅田 徹

旧伊賀町の文化協会に『いがぐり川柳句会』が発足したのは、平成十年（一九九八年）四月ですので、今年二十五周年目を迎えます。

そして、市町村合併後は、伊賀市随一の川柳サークルとして、旧の伊賀町・上野市阿山町・鳥ヶ原村からのご参加もいただき、現在十二人の会員で活動しています。

以前は柘植地区市民センターにて、毎月第三木曜日午後開催しておりましたが、コロナ禍で、公的な会場での開催が困難となった時期からは、企画者の自宅を開放して楽しんでいただいております。

川柳は、『人間』を詠います  
にんげんの歎び・哀しみを  
詠います

にんげんの心の叫びを  
五・七・五音で詠みます

とほる(講師)

弱虫のほうがほんとの私です  
追伸に本音がちらり顔をだす  
うっかりと貰うてしもた黍団子(きびだんご)

日頃の暮らしの中の「ある、ある」や、人間味がにじみ出るので、笑いあり、おしやべりありの楽しい時間となります。

その中で、「川柳とは」「俳句との関係」など様々なことも学べます。

◆ 句会開催等は次の通りです。

【日時】・・・毎月第三木曜日 十三時半～

【場所】・・・伊賀市野村一二六一二

梅田徹宅（『まん福塾』）

【参加申込み・お問い合わせ】は左記へ  
サークル代表・植木義信 045-21055



■ 梅田 徹さん(講師)プロフィール  
昭和三年生まれの御年九十五歳(掲載写真中央)「新聞にときたま載って悦に入り」国鉄・天王寺鉄道学園教頭当時、父の背を見て始めた川柳。職場の「鉄道川柳」への投句から始め、「朝日なになわ柳壇」で入選(勝浦駅長時代の53歳)「豪雪の遅延を新婚気にとめず」/松阪駅長時代、三重番傘川柳会松阪句会に入会。昭和60年、番傘本社同人/「公民館夜は多士済々の靴」66歳、伊賀町当時の垂井町長に乞われ伊賀町中央公民館長に就任。20余りのサークルを立ち上げる。「いがぐり川柳」も其の一つで伊賀市随一の川柳会と成る。翌年「ふるさと会館いが」の館長を兼務/「日野原流長命術を追いかける」74歳、尊敬する先輩に勧められて入会した「新老人の会」創(はじ)める事を忘れなければ人は老いない。80歳からでも新しい事をやれ/芭蕉翁の「俳諧の連歌」俳句と川柳の違いも納得。「精一杯やった背中の子に遺す」「いがぐり川柳二十周年記念号・平成30年発行より抜粋」  
▼『まん福塾』梅田徹さんの御息女の西井達子(さとこ)さん(写真右手前)が主宰されている各種サークル教室です。

【サークル・教室紹介】第14弾

上町『愛の杖』

笑顔で助け合いのできる

まちををめざして



『愛の杖』は、「高齢者の方がいきいき元気に暮らしていただきたい」との思いから立ち上げられました。お互いを支え合う『愛の杖』として、約25年ほどの活動になりましたが、多くのボランティアスタッフの支えにより今まで続けられています。

以前は、上町・下町合同で行っておいりましたが、平成26年より、いきいきサロン『上町愛の杖』として開催しています。月に1回(年間8回)、集会所に集まっていただき「出前講座」を開いてお話を聞いたり、音楽を聞いたり歌ったり。映画鑑賞もあります。(上記写真はギターマンドリングループたんぽぽの演奏・1月19日開催) 又、2月9日には、特殊詐欺犯罪の被害を防止する為の方策と題して、「出前講座」を開催し、伊賀警察署の警部補の方が講師を務めて下さいました。

これまで集会所で行う事が多かったのですが、コロナ禍になって以来、広い場所で換気もよく出来る事から、「柘植地区市民センター」を利用させてもらっています。上町区内に在り、高齢の方も歩いて来られるのもいいところです。

以前は、年に一回くらい近い所へ車で出掛けていましたが、コロナ禍のこの三年間何処へも行けませんでした。そのうち何処かへ出掛けられたら、というのが皆の思いです。(上町ボランティアスタッフ一同)

【サークル・教室紹介】第15弾

『大正琴・時音』

ときお

幹事 栗本悦子

大正琴といえは年配の方が弾く懐かしのメロディーというイメージでした。そんな私達が大正琴を始めたのは先生方の演奏会を聴きに行ったのがきっかけでした。



クラシックやポップな曲をキラキラの衣装を着て、とても素敵な音色で演奏されました。それから大正琴のイメージが変わり、「こんな風に弾きたい!」と思って、集まりました。

現在習っているのは三人で、毎月二回の練習です。なかなか思うように弾けなかったりという事もありますが、二つのパートに分かれて練習しています。皆で曲に合わせて弾くのはとても楽しいです。しばしば雑談に花が咲いてしまう事も・・・毎年、「演奏会」が遠方であり、旅行気分で行けるのも楽しみの一つです。

今年四月に京都で「演奏会」があります。何ヶ月も前からそれに向けて練習しています。演奏曲は、滝廉太郎の「花」と、キンキッズの「フラワー」という曲です。

普段は「イエスタデイ・ワンス・モア」など自分たちのお気に入りの色々なジャンルの曲を練習しています。

大正琴は数字譜なので楽譜を読めなくても始められる手軽な楽器です。また、右手と左手を使うので「脳トレ」としても役立つと思っ続けています。

少しでも興味をもってもらえる方、一緒に大正琴を楽しみませんか。



## 【まち協 行事予定 / 3月】

(於) 市民センターホール

● 12区連絡協議会 3月10日(金) 19時半

● 運営委員会 3月17日(金) 19時半

● 新旧区長引継会 3月26日(日) 19時

### 【各部会 委員会行事予定】

● 防災委員会 3月9日(木) 20時

● 人権同和部会 3月3日(金) 人権センター

● 健康福祉部会 3月6日(月) 20時

● 健康ウォーキング月ヶ瀬 3月16日(木)

● 生活環境部会 3月27日(月) 20時

● サルどこネットワーク会議 3月22日(水) 15時

● 教育文化部会 3月8日(水) 19時半

● 落語を楽しもう 3月12日(日) 13時半

(於) 前田教育会館

※ 何れの会議・部会・委員会も令和4年度最終開催となります。

## ★☆☆ 編集後記 ☆☆☆

さんがつの さんさんさびしき 陽を あつめ 卒業してゆく 生徒の背中

【俵万智】三月の卒業で寂しい想いの中、燦々と太陽が卒業してゆく生徒達の背中を照らしている・・・「さ」行をひらがなで繰り返し、生徒の背中を見送る先生の気持ちを上手く表現した俵万智は当時、神奈川県立橋本高校の国語教員。昭和62年に発表した【サラダ記念日】は歌集としては異例の大ベストセラーを記録。日常会話で使うカタカナを巧みに用いた歌風は口語短歌の裾野を一気に広げました。

「この味がいいね」と君が言ったから 七月六日はサラダ記念日【サラダ記念日】

▼【卒業式】が全国各地で挙行され3年間の学校生活に別れを告げる弥生三月。コロナと共に3年間のマスク生活を送り友達の顔をまともに見た事が無いという学生も多い事に、改めてコロナが引き起こした大罪、負の側面の数々を考えさせられる次第です。

▼社会生活・経済活動を何とか元に戻そうと世界中が其の方策を模索する中、コロナが5類に移行した際、日常生活を取り戻す為に最も必要不可欠な物が「医薬品」。

何はさておき、「特効薬」の即時市場投入こそが喫緊の課題と思われれます。(清水)